

部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 森脇 康仁 (木戸 徹)	内線	4459 (4465)
事業種目	砂防事業	事業名	事業区間	総事業費	3.0 億円
		通常砂防事業 くりに 栗谷川		内用地補償費	0.1 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
朝来市 生野町 <small>とちはら</small> 栃原			19年度	19年度	22年度
事業目的			事業内容		
土石流災害対策 ・土石流危険渓流に該当し、溪岸の浸食が進んでおり土砂災害の危険性が高まっているため、えん堤工を設置して地域住民の人命、財産、(主)一宮生野線を保全する。			・砂防えん堤工 2基 (H = 14.5m, L = 90.0m) (H = 14.5m, L = 80.0m) [負担割合 国: 1 / 2、県: 1 / 2]		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心	・栗谷川は土石流危険渓流である。 ・平成16年10月の台風23号により、溪岸の浸食が進むなど流域内も広範囲に荒廃しているが、砂防設備は未整備である。 ・溪流勾配は急峻で、溪岸の侵食が激しく土石流発生の危険性は高い。 ・保全対象: 人家 = 11戸、公共施設 = (主)一宮生野線、その他 = 林道、橋梁2基 田畑 = 11.00ha				
地域の活性化	・砂防えん堤工事により土砂災害の危険性を軽減し、地域の生活道路であり、バス路線である(主)一宮生野線を保全することにより、地域間の交流に一層寄与する。				
快適性・ゆとり	・えん堤設置により土石流を止め、下流域への土砂氾濫を防止することにより、下流域の住民に安全で快適な生活空間を提供する。				
その他	・地元の土砂災害に対する認識度も高く、事業化への要望が強い。 ・豪雪地帯対策指定地域及び過疎対策法対策市に該当し、砂防えん堤工の整備により条件不利地域の安全性向上に寄与する。				
(2)有効性・効率性 有効性	・人命・財産(人家11戸)、地域の生活道路であり、バス路線である(主)一宮生野線が保全されるので、事業実施による投資効果は大きい。				
効率性	・地元からの要望が強く、市等の協力体制が整っており、円滑な事業執行が可能である。				
(3)環境適合性	・県道等からの視認性を考慮し、化粧型枠等により周辺景観に配慮する。また、工事による法面については緑化を図るなど環境保全に努める。				
(4)優先性	・土石流の想定被害区域には、人家11戸及び(主)一宮生野線がある。 ・流域状況は平成16年10月の台風23号により土砂が流出し、流域の荒廃が進み、今後も土砂流出の危険性が高く、栃原地区の人命・財産等を保全するため早急な対策が必要である。				